

改善方策実施計画書

担当部局： 語学教育研究所

責任者： 語学教育研究所長

幹事： 外国語学部事務室

2010 年 7 月 13 日

認証評価指摘事項						
点検・評価問題点	研究員の研究成果と実践的教育効果との連携が不透明である。					
改善方策	6-33-1, 6-33-2, 6-34-1 時代のニーズに鑑みながら教授法、教材研究・開発、評価等の実践教育面の研究を特化し、研究発表例会に反映させ、そこを意見交換及び 研究員間の連携の場とする。					
計画	前期		中期		後期	
	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
				→		
2010 年度実施計画			達成時期	2010 年度取り組み結果		
「研究員の研究成果に関する報告書」仕様の策定			2011. 3	A 完全に達成	B 達成半ば	○ C 未達成
「研究員研究成果意見交換会実施要領」の策定			2011. 3	一部検討を要するため、次期所長に引き継ぎを行う。		
2011 年度実施計画			達成時期	2011 年度取り組み結果		
「研究員の研究成果に関する報告」を HP や「研究所報」等で公表する。「研究発表会」に「研究員研究成果意見交換会」側面を付加し、研究員相互の意見交流を充実させる。			2012. 3	○ A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
				「研究発表会」ではほぼ全研究員が「研究員の研究成果に関する報告」をした。「研究員研究成果意見交換会」側面も活発化し、異種領域間の意見交流もみられるようになった。「所報」に講演会と研究発表会の全要旨を掲載した。本学統一版 HP も完成した。(年度初めの会議で内容の検証を受け、字句の微調整はありうる)		
2012 年度実施計画			達成時期	2012 年度取り組み結果		
旧年度同様、「研究員の研究成果に関する報告」を HP や『研究所報』等で公表しつつ続行する。「研究発表会」に「研究員研究成果意見交換会」側面を付加し、研究員相互の意見交流を充実させる。			2013. 3	A 完全に達成	○ B 達成半ば	C 未達成
				HP, 『研究所報』、『語研便り』などにおける、要旨を含む公表は全研究員の研究成果に関して実践できた。「研究員研究成果意見交換会」側面については、一定の成果はあったが、教員があまりにも多忙なため、曜日変更などの試みも多くの参加者による意見交換、交流という理想的な形とは言えない。		
2013 年度実施計画			達成時期	2013 年度取り組み結果		
「研究員研究成果発表意見交換会」においては、全研究員の発表を共有し、なるべく多くの構成員や関連分野の研究者と学術交流し合う理想的な姿に近づける努力をする。				A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
2014 年度実施計画			達成時期	2014 年度取り組み結果		
				A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
				(B または C の理由)		
2015 年度実施計画			達成時期	2015 年度取り組み結果		
				A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
				(B または C の理由)		

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	研究員の研究成果と実践的教育効果との連携が不透明である。
改善方策	6-33-1 時代のニーズに鑑みながら教授法、教材研究・開発、評価等の実践教育面の研究を特化し、研究発表例会に反映させ、そこを意見交換及び 研究員間の連携の場とする。

(2011 年 3 月 10 日現在)

【現状の説明】

研究員相互の交流機会が少なく、テーマ設定についても各研究部会ともに意思統一の時間を要するため、継続審議事項として次期所長に引き継ぎを行う予定である。

「研究員の研究成果に関する報告」をHPや研究所所報等で公表する。「研究発表会」に「研究員研究成果意見交換会」側面を付加し、研究員相互の意見交流を充実させる。

所見	計画通り実施されることを期待します。
----	--------------------

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

目標である「研究員の研究成果に関する報告をHPや『研究所所報』等で公表する。」は『研究所所報』においては完全に達成した。HPの本学統一化工事に合わせたため年度内ぎりぎりになったが、完成した。

次の目標である、「研究発表会に研究員研究成果意見交換会側面を付加し、研究員相互の意見交流を充実させる。」は研究会への出席者が徐々に増して、五言語専門領域を超えて意見交流が形成されつつある。しかし、他の会議参加義務が多く時間的制約がかなりあることは否めない。

所見	最初の目標が達成されたことは評価できます。次の目標への取り組みが進展することを期待しています。
----	---

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

今年度も「研究員の研究成果に関する報告をHPや『研究所所報』『語研便り』等において、とりわけ要旨を含む詳細な公表に努めた。全研究員が欠けることなく、各自の研究発表を行い、他の研究員、後期課程学生等々の参加も促した。従来、要旨も含めた公表が習慣化されていなかったためもあるが、この2年間で徹底して行えるようになった。HPの本学統一化にも参入できて、2012年度分のHPでの公表も年度内に間に合うことができた。

「研究発表会に研究員研究成果意見交換会側面を付加し、研究員相互の意見交流を充実させる。」目標については、各種委員会との重複を避ける努力をし、曜日変更なども試みた。一定の成果が出たと思うが、この方策だけでは、教員が多忙なため常に多くの参加者を得ることは困難である。発表のテーマによっては、ゼミナールや後期課程での授業、関連科目の授業などにリンクさせて、教員の研究テーマに学生を引き寄せる工夫や努力がなされてもよいかもしれない。

所見	研究員の研究成果の報告の公表が制度化されたことは大いに評価できます。研究員相互の意見交流を通じての実践的教育効果との連携に向けての更なる工夫や努力に期待します。
----	--

(2014 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

所見	
----	--

改善方策実施計画書

担当部局： 語学教育研究所 責任者：語学教育研究所長 幹事：外国語学部事務室

2010年 7月13日

認証評価指摘事項						
点検・評価問題点	研究員相互の研鑽、意思疎通において十分とはいえない。					
改善方策	6-33-4 研究発表会の活性化とニューズレター「語研便り」（仮称）の作成。					
計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
2010年度実施計画			達成時期	2010年度取り組み結果		
研究発表会、講演会実施要領を作成し、研究員、研究部会長に周知徹底に努める。 従来の『研究所所報』に加え、研究所の活動を発信する媒体として『語研便り』（仮称）を刊行、学部教員に配布する。			2011.3	☐ A完全に達成	☐ B達成半ば	☐ 未達成
			2011.3	（Bの理由） 内部にて微調整の必要あり。「語研便り」については試作版を作成したが、実施にはいたっていない。		
2011年度実施計画			達成時期	2011年度取り組み結果		
研究所の広報としての『語研便り』（仮称）の作成を運営委員会に提案する。			2012.3	☐ A完全に達成	☐ B達成半ば	☐ C未達成
				基本的な広報としての『語研便り』形式を決定し実施済み。		
2012年度実施計画			達成時期	2012年度取り組み結果		
『語研便り』の内容充実と発刊回数増加を目指す。			2013.3	☐ A完全に達成	☐ B達成半ば	☐ C未達成
				『語研便り』は語学教育研究所の活動の近況を外国語学部や他学部の教員がアップデートに知るための身近な便りになった。とりわけ、近況情報のほかに研究発表、講演会内容の要旨は、その重要性が研究者にしっかり認識されるようになった。		
2013年度実施計画			達成時期	2013年度取り組み結果		
				☐ A完全に達成	☐ B達成半ば	☐ C未達成
				（BまたはCの理由）		
2014年度実施計画			達成時期	2014年度取り組み結果		
				☐ A完全に達成	☐ B達成半ば	☐ C未達成
				（BまたはCの理由）		
2015年度実施計画			達成時期	2015年度取り組み結果		
				☐ A完全に達成	☐ B達成半ば	☐ C未達成
				（BまたはCの理由）		

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	研究員相互の研鑽、意思疎通において十分とはいえない。
改善方策	6-33-4 研究発表会の活性化とニューズレター「語研便り」（仮称）の作成。

(2011 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

研究員相互の意思疎通、意見交流については研究員の対応に一任する形で推移している。「語研便り」については業務が煩雑で、かつ時間を要するため、継続的に刊行するかはなお検討を要する。

広報としての『語研便り』を実施する。

所見	「語研便り」を継続的に刊行するかをまず早急に検討を行い、その結果によっては、2011 年度以降の実行計画を練り直す必要がある。
----	---

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

運営委員会において『語研便り』は基本的な広報がその役目であることを確認し、形式を決定して実施済みである。

継続的な定期刊行ではなく、研究発表会、講演会その他の開催に連動する刊行で、随時発行とすることを検討し、新年度早々に実施を目指している。

所見	『語研便り』の早期の実施を期待しています。実施の後には研究発表会の活性化に取り組まれることを望みます。
----	---

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

『語研便り』は語学教育研究所の活動の近況を外国語学部や他学部の教員がアップデートに知るための身近な便りになった。とりわけ、近況情報のほかに研究発表、講演会内容の要旨は、従来義務付けされていなかったため、習慣化するのに時間がかかった。しかし、現在では要旨公表の重要性が研究者にしっかり認識されるようになった。今後も最低年 2 回～3 回、発行されることを望んでいる。

所見	広報の『語研便り』による研究員相互のコミュニケーションの制度化は大いに評価できます。今後はこの体制を維持・発展させるとともに、研究発表会の活性化を通じて、研究員相互の研鑽に期待します。
----	--

(2014 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

所見	
----	--

改善方策実施計画書

担当部局： 語学教育研究所 責任者：語学教育研究所長 幹事：外国語学部事務室

2010 年 7 月 13 日

認証評価指摘事項						
点検・評価問題点	予算の拡充は困難と思われるため、現状の予算規模維持に努める。					
改善方策	6-33-5 学会発表、共同研究等の財政基盤を維持し共同研究の推進に努める。					
計画	前期		中期		後期	
	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
2010 年度実施計画			達成時期	2010 年度取り組み結果		
他大学附置研究所の情報収集に努める。 研究所の活動事業報告書を作成し、予算申請にあたり 学園から理解を得るように努める。			2011. 3	A 完全に達成 ○ B 達成半ば C 未達成		
			2011. 3	(B の理由) 情報収集の検討、実施項目について継続協議。		
2011 年度実施計画			達成時期	2011 年度取り組み結果		
共同研究推進を促す。			2012. 3	A 完全に達成 ○ B 達成半ば C 未達成		
				「東松山外国語分科会」との連携で、共同研究「本学における未習外国語に関する意識調査研究」がたちあがり、執行予算も得ることができた。		
2012 年度実施計画			達成時期	2012 年度取り組み結果		
「本学における未習外国語に関する意識調査研究」を実施して、研究成果を刊行する。			2013. 3	○ A 完全に達成 B 達成半ば C 未達成		
				前期中に、日本フランス語フランス文学学会によるフランス語教育に関する全国的アンケート(文部科学省の研究の一環)とのアンケート方法、分析等のタイアップが成就した。後期に「東松山外国語分科会」の協力を仰ぎ、本学における未習外国語全般に対するアンケートが実施された。分析と報告書作成が終了し、2月末に刊行作業に入り、年度未刊行の運びとなった。		
2013 年度実施計画			達成時期	2013 年度取り組み結果		
			2014. 3	A 完全に達成 B 達成半ば C 未達成		
				(B の理由)		
2014 年度実施計画			達成時期	2014 年度取り組み結果		
			2015. 3	A 完全に達成 B 達成半ば C 未達成		
				(B の理由)		
2015 年度実施計画			達成時期	2015 年度取り組み結果		
			2016. 3	A 完全に達成 B 達成半ば C 未達成		

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	予算の拡充は困難と思われるため、現状の予算規模維持に努める。
改善方策	6-33-5 学会発表、共同研究等の財政基盤を維持し共同研究の推進に努める

(2011 年 3 月 10 日現在)

【現状の説明】

学内の財政状況から大きな改革、改変は望めず、むしろ予算縮小の傾向が強化されていることから、現状理解を研究員に対して周知し共同研究推進を促す。

継続審議・検討事項とする。

所見	予算縮小の傾向から、一研究所だけではなく、全学的な案件として検討する必要はないでしょうか。
----	---

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

「東松山外国語分科会」との連携で、共同研究「本学における未習外国語に関する意識調査研究」がたちあがり、執行予算も得ることができた。新年度に入る早々「本学における未習外国語に関する意識調査研究」を実施し、研究成果を今年度中に刊行する準備が行われている。

所見	予算の獲得は評価できます。調査研究を実施し、成果の刊行を期待しています。
----	--------------------------------------

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

「東松山外国語分科会」との連携で、共同研究「本学における未習外国語に関する意識調査研究」は前期中に、日本フランス語フランス文学学会によるフランス語教育に関する全国的アンケート(文部科学省の研究の一環)とのアンケート方法、分析等のタイアップが成就した。後期に「東松山外国語分科会」の協力を仰ぎ、本学における未習外国語全般に対するアンケートが実施された。分析と報告書作成が終了し、2月末に刊行作業に入り、年度末刊行の運びとなった。
この成果が本学における未習外国語の教育改善、新機軸展開の基礎的資料となることを期待してやまない。

所見	共同研究の成果の刊行は高く評価できます。今後の語学教育の改善に資するものと期待します。
----	---

(2014 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

所見	
----	--

改善方策実施計画書

担当部局： 語学教育研究所

責任者：語学教育研究所長

幹事：外国語学部事務室

2010 年 7 月 13 日

認証評価指摘事項						
点検・評価問題点	大学院外国語学研究科在籍の大学院生の支援体制が十全ではない。					
改善方策	6-34-2 外国語学研究科院生の研究活動の支援・整備に努める。					
計画	前期		中期		後期	
	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
2010 年度実施計画		達成時期	2010 年度取り組み結果			
語学教育研究所准研究員規程（仮称）を策定する。 その際、外国語学研究科各専攻科主任および指導教員との密なる連携を図る。		2011. 3	A 完全に達成 B 達成半ば ○ C 未達成 (Cの理由) 大学院生の研究レベル、研究領域が多岐にわたるため、また規程の作成などに時間を要するため、計画通りに進まなかったため引き続き次期所長において継続討議を計っていく。			
2011 年度実施計画		達成時期	2011 年度取り組み結果			
「語学教育研究所准研究員規程（仮称）を策定」 語学教育研究所准研究員に関する資料収集、聞き取り、意見交換を実施する。 研究院生の論文推敲に関し、ネイティブチェック、査読スタッフを増員し、論文の質の向上をはかる。		2012. 3	A 完全に達成 ○ B 達成半ば C 未達成 合同運営委員会において、「准研究員を置く余裕がない」との判断が成され、「規程（仮称）策定」は否決された。「研究所の研究グループの一員として認める」という代案を検討中である。 「研究院生の論文推敲に関し、ネイティブチェック、査読スタッフを増員し、論文の質の向上をはかる」は達成された。			
2012 年度実施計画		達成時期	2012 年度取り組み結果			
語学教育研究所准研究員に関する前年の検討討議結果を踏まえ、運営委員会で討議する。		2013. 3	A 完全に達成 ○ B 達成半ば C 未達成 「共同研究」の一員として、その範囲内での参加というアプローチから、後期課程の学生との距離を将来的には縮めていくしかないであろう。 ネイティブによるチェック体制が確立し、『論叢30号』への後期課程学生の参加は、質的に格段の上達を示し、参加論文も『論叢』の三分の一を占める成果となった。			
2013 年度実施計画		達成時期	2013 年度取り組み結果			
後期課程の学生を「共同研究」の一員として、その範囲内のみでの研究所への参加を認める方向で進める。			A 完全に達成 B 達成半ば C 未達成 (BまたはCの理由)			
2014 年度実施計画		達成時期	2014 年度取り組み結果			
			A 完全に達成 B 達成半ば C 未達成 (BまたはCの理由)			
2015 年度実施計画		達成時期	2015 年度取り組み結果			
			A 完全に達成 B 達成半ば C 未達成 (BまたはCの理由)			

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	大学院外国語学研究科在籍の大学院生の支援体制が十全ではない。
改善方策	6-34-2 外国語学研究科院生の研究活動の支援・整備に努める。

(2011 年 3 月 10 日現在)

【現状の説明】

外国語学研究科在籍の院生のなかには優秀な成果を収めているケースもあり、引き続き支援体制を検討していく。なお、研究所の刊行物『語学教育研究論叢』には後期課程在籍生の論文を少なくとも複数本掲載するようにしており、その支援の効果は顕著に表れている。

「語学教育研究所准研究員規定（仮称）策定」は運営委員会で検討不十分とみなされたため、再検討課題となった。

所見	計画通り実施されることを期待します。
----	--------------------

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

合同運営委員会において、「準研究員を置く余裕がない」との判断が成され、「規程（仮称）策定」は否決された。「研究所の研究グループの一員として認める」という代案を検討中である。

本年度発刊の『語学研究論叢』には、後期課程在籍性からの応募数が 20 本を超えた。彼らの支援強化をはかるために、推敲段階におけるネイティブチェック、査読スタッフの増員などによる態勢を整えた結果、従来に比べ論文の基本的質の著しい向上が見られた。

所見	規程策定の否決は残念であるが、代案の進展を期待します。研究所の刊行物への院生の応募の状況は好ましく、大いに評価できます。継続的な支援を期待しています。
----	---

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

「準研究員を置く余裕がない」との判断は現時点では動かしようがなく、「共同研究」の一員として、その範囲内での参加というアプローチから、後期課程の学生との距離を将来的には縮めていくしかないであろう。

ネイティブによるチェック体制が確立し、『論叢 30 号』への後期課程学生の参加は、質的に格段の上達を示し、参加論文も『論叢』の三分の一を占める成果となった。

所見	共同研究の一員としての後期課程の学生の参加は望ましいものです。ネイティブによるチェックによって『論叢』への論文の増加と質の改善も高く評価できます。今後もこの体制の維持・発展をされるよう期待しています。
----	--

(2014 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

所見	
----	--

改善方策実施計画書

担当部局： 語学教育研究所 責任者：語学教育研究所長 幹事：外国語学部事務室

2010 年 7 月 13 日

認証評価指摘事項						
点検・評価問題点	研究員の研究活動において、現状分析、評価のための機会が不十分である。					
改善方策	6-34-3 研究員の研究分野に対する現状分析、意見交換に取り組む。					
計画	前期		中期		後期	
	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
2010 年度実施計画			達成時期	2010 年度取り組み結果		
研究員の研究成果評価検討委員会（仮称）について検討し、設置のための調査準備。			2011. 3	A 完全に達成	○	B 達成半ば
				C 未達成 (B の理由) 「委員会設置の検討を行ったが、研究員の研究成果評価検討委員会（仮称）は運営委員会で否決された」引き続き、内部調査、調整を行う必要がある。		
2011 年度実施計画			達成時期	2011 年度取り組み結果		
研究員の研究成果評価検討委員会（仮称）は運営委員会で否決されたため、「研究発表会」に意見交換の場を設ける。			2012. 3	A 完全に達成	○	B 達成半ば
				C 未達成 (B の理由) 研究発表会には出席者が増し、質疑応答、意見交換はもとより、異種言語、異種領域間においても活発な情報交換が形成されるようになった。しかし、他の会議参加義務が多く、時間的制約があることは否めない。		
2012 年度実施計画			達成時期	2012 年度取り組み結果		
研究発表会での意見交換が迅速に行える方法を検討する。				A 完全に達成	○	B 達成半ば
				C 未達成 各種委員会との重複を避ける努力をし、曜日変更なども試みた。一定の成果は出たと思うが、この方策だけでは、教員が多忙なため常に多くの参加者を得ることは困難である。発表のテーマによっては、ゼミナールや後期課程での授業、関連科目の授業などにリンクさせて、教員の研究テーマに学生を引き寄せる工夫や努力がなされてもよいかもしれない。		
2013 年度実施計画			達成時期	2013 年度取り組み結果		
研究発表会参加者の増加、後期課程学生への働きかけ、開催曜日の工夫などにより、活性化を図る。				A 完全に達成		B 達成半ば
				C 未達成 (B または C の理由)		
2014 年度実施計画			達成時期	2014 年度取り組み結果		
				A 完全に達成		B 達成半ば
				C 未達成 (B または C の理由)		
2015 年度実施計画			達成時期	2015 年度取り組み結果		
				A 完全に達成		B 達成半ば
				C 未達成 (B または C の理由)		

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	研究員の研究活動において、現状分析、評価のための機構が不十分である。コメント[Z1]機構ではなく機会に書き改めること。
改善方策	6-34-3 研究員の研究分野に対する現状分析、意見交換に取り組む。

(2011 年 3 月 10 日現在)

【現状の説明】

定例研究会などの機会を通じて、研究員相互の意見交流などの機会を提供するようにした。引き続き、情報の共有に努めていく。研究員の研究成果評価検討委員会（仮称）の検討はされておらず、運営委員会で否決されたため、研究発表会に意見交換の場を設ける。

所見	計画通り実施されることを期待します。
----	--------------------

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

研究発表会には出席者が増し、質疑応答、意見交換はもとより、異種言語、異種領域間においても活発な情報交換が形成されるようになった。しかし、他の会議参加義務が多く時間的制約があることは否めない。

所見	制約がある中、今後も情報交換が継続されることを期待します。
----	-------------------------------

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

各種委員会との重複を避ける努力をし、曜日変更なども試みた。一定の成果は出たと思うが、この方策だけでは、教員が多忙なため常に多くの参加者を得ることは困難である。発表のテーマによっては、ゼミナールや後期課程での授業、関連科目の授業などにリンクさせて、教員の研究テーマに学生を引き寄せる工夫や努力がなされてもよいかもしれない。

所見	情報交換の機会の改善に努めるとともに、テーマをリンクさせ学生を引き寄せる工夫や努力は望ましく、その方向に進まれることを希望します。
----	---

(2014 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

所見	
----	--

改善方策実施計画書

担当部局： 語学教育研究所

責任者：語学教育研究所長

幹事：外国語学部事務室

2010 年 7 月 13 日

認証評価指摘事項						
点検・評価問題点	研究所における研究員の研究成果を発信するための諸策が不十分である。					
改善方策	6-34-4 教員間、研究員間で、研究成果を共有する。					
計画	前期		中期		後期	
	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
2010 年度実施計画			達成時期	2010 年度取り組み結果		
研究員の研究成果について外部発信、社会還元のための諸策を検討し、意見を収集する。			2011. 3	☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成
				(B の理由) 研究員への事前調査などを必要とする。引き続き検討事項とすることが望ましい。		
2011 年度実施計画			達成時期	2011 年度取り組み結果		
ホームページ、『語学教育研究所所報』の充実化により、研究成果を発信し共有する。			2012. 3	☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成
				(A の理由) 『語学研究所所報』には講演会、研究発表会すべての詳しい要旨を掲載した。HP は本学統一のフォーマットに合わせる作業であったため年度内ぎりぎりに完成した。		
2012 年度実施計画			達成時期	2012 年度取り組み結果		
ホームページ、『語学教育研究所所報』のさらなる充実化をはかり、研究成果を発信し共有する。			2013. 3	☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成
				HP, 『語学教育研究所所報』『語研便り』などに研究所の活動の詳細を公表し、充実化を図った。H0 の全学共通のフォーマット化は実現したので、外国語学部附置の研究所にふさわしく、「各種言語による語研の紹介ページを HP に開く」という希望が合同委員会の総意として表明された。		
2013 年度実施計画			達成時期	2013 年度取り組み結果		
「各種言語による語研の紹介ページを HP に開く」ために、HP 担当委員を置き、1-2 年内での実現を目指す。			2014. 3	☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成
				(B または C の理由)		
2014 年度実施計画			達成時期	2014 年度取り組み結果		
			2015. 3	☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成
				(B の理由)		
2015 年度実施計画			達成時期	2015 年度取り組み結果		
			2016. 3	☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	研究所における研究員の研究成果を発信するための諸策が不十分である。
改善方策	6-34-4 教員間、研究員間で、研究成果を共有する。

(2011 年 3 月 10 日現在)

【現状の説明】

研究員の研究成果を発信するための諸策としては、「語学教育研究論叢」「語学教育フォーラム」などの刊行物において実効されるが、一定の成果はあらわれているものの、さらなる奨励を行っていく。

所見	計画通り実施されることを期待します。
----	--------------------

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

『語学教育研究論叢』第 29 号と『語学教育フォーラム』(24 号、25 号、26 号)を刊行した。『語学研究所所報』は研究発表と講演会の全要旨を掲載し従来より大幅に頁数が増えた。HP は本学統一のフォーマットに合わせて年度内ぎりぎりに完成した。

所見	刊行物の充実は大いに評価できます。今後の更なる発展と継続を期待しています。今後は地域連携センターなどとの連携を望みます。
----	--

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

『語学教育研究論叢』第 30 号と『語学教育フォーラム』(25 号、26 号)を刊行した。語研の近況をアップデートに公表する『語研便り』と長期的なまとめとしての『語学研究所所報』は研究発表と講演会の全要旨を掲載し従来より大幅に頁数が増えた。HP は本学統一のフォーマットに合わせることができて、今年度分をアップロードした。

次年度以降への運営・研究合同委員会の希望として、「外国語学部附置の研究所にふさわしく、各種言語による語研の紹介ページを HP に開く」がある。具体的企画案および予算措置等を整え、国際的な窓としての HP の充実を課題として期待する。

所見	刊行物の継続と充実および HP の更新は、研究成果の発信の制度化が進んだことを示しています。今後は更に計画されているように HP の充実に進んで行ってください。
----	--

(2014 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

所見	
----	--